

# 明確なクラウド導入 の手引き

お客様のビジネスに最適なクラウドモデルの購入とその実装に役立つ様々な方法や、導入過程で考慮すべきあらゆる点をご紹介します。物事を簡単にする、それがクラウド・ソリューションです。そして、このeBookでそれがより容易になるはずです。



## 目次

- 1 ページ — はじめに  
このeBookの役割  
Pg. 3
- 2 基本  
クラウドとは、一体何でしょうか？  
Pg. 3
- 3 クラウドへの道  
その活用方法  
Pg. 5
- 4 始めましょう  
チェック項目  
Pg. 7
- 5 ベンダーを選択する  
そのポイント  
Pg. 8
- 6 社内の承認を得る  
そのアプローチ  
Pg. 10
- 7 ページ — 実装  
スムーズな進捗を確保する  
Pg. 13
- 8 ページ — 結論  
総まとめ  
Pg. 15

1

## クラウドで明確になること

ベンダーの数だけオプションも存在するとなると、クラウドの機能や性能についての情報収集は単純な作業ではありません。しかしここで重要なのは、1つのソリューションを選択することは、すべての特徴を理解するというよりも、お客様に何が最適かを認識することに重点を置く作業であるということです。

このeBookでは、お客様のビジネスに最適なクラウド・ソリューションの選択に向け、各手順を説明していきます。まず基本から確認していきましょう。



2

## 基本

### クラウドとは、一体何でしょうか？

クラウドとは、サービスを重視したよりスマートなIT運用モデルです。オンライン コンピューティング サービスが、より効率的なデータ管理やアプリケーションの迅速な展開を実現し、必要に応じてコンピューティング パワーへのアクセスを可能にします。

クラウド自体は目的地ではありません。お客様のデータセンター、お客様以外のデータセンター、またはその両方といったあらゆる場所につながり、インフラストラクチャ・リソース、アプリケーション、およびサービスを提供するものです。今、その概念は浸透しつつあります。

## 基本（続き）

### 実際どう役立つのでしょうか？

低レベルのITインフラストラクチャ・リソースの展開、統合、および運用に関わる負担を取り除くだけでなく、ビジネスや開発ニーズに適合するリソース、アプリケーション、またはサービスにオンデマンドでアクセスすることができます。

クラウドソリューションは、データ管理とセキュリティにおける効率性を向上し、ダウンタイムを削減するほか、専門スキルとメンテナンスの必要性を最小限に抑えます。そして重要なのが、ワークロードの変化に合わせて、ITリソースを最適化できるという点です。

クラウドモデルを適切に導入することで、開発スピードが促進され、迅速なイノベーションが可能となります。またアプリケーションやサービス要件の変更に対応する際にも非常に効果的です。

### どうすれば効果的に活用できるのでしょうか？

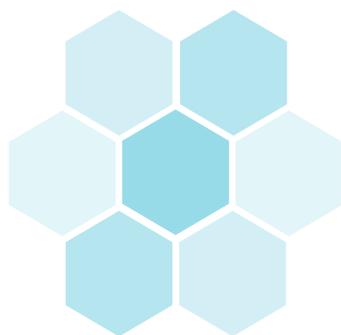
典型的な誤解として、企業は「単にクラウドに移行するだけ」と考えがちですが、実際はそれほど単純なことではありません。クラウド変革を成功させるには、希望するビジネスの成果、配置、ワークロード、クラウドモデル計画、アプリケーション、チームのスキル、および予算を考慮した強固な戦略の策定から始める必要があります。

つまり、すべては自社のビジネスとニーズに最適なものは何かを把握することから始まります。

## 3

## クラウドへの道

クラウドは、パブリックとプライベートの2種類に分類されます。これらに優劣はなく、お客様の具体的なニーズとその実行方法によって選択肢が分かります。実際、多くの組織では両タイプを織り交ぜて使用する必要があります(詳細は後述します)。



パブリック クラウドとは第三者が提供するクラウドです。パブリック クラウドを使用すると、ストレージ、コンピューティング、ネットワークなどのリソースや追加サービスの利用などでコストが急速に(そして気づかないうちに)増加する場合があります。

また、利用者側から完全なカスタマイズができないため、コスト管理や予測可能な方法でセキュリティを保証することが困難です。



プライベート クラウドでは、利用者側がデータ、セキュリティ、コストの制御を維持しつつ、クラウドの配信機能、スケーラビリティ、セルフサービスを利用してITリソースの専用プールを管理することが可能です。

サービスプロバイダーがプライベート クラウドのホストと管理、またはそのいずれかを行う場合もあります。

## これらクラウドを利用する3つの方法

クラウド戦略は、期待するビジネス成果を目指した上で構築する必要があります。専門家と協力し、どの混合モデルが御社に最適か、またその理由は何なのかを理解しましょう。



### シングル クラウド環境

オンプレミスまたはオフプレミスの、パブリックまたはプライベートの単一クラウドソリューションです。単一の共通プラットフォームですべてのワークロードとアプリケーションを管理ができて扱いやすいのですが、単一プラットフォームであるがゆえに、企業が必要とする柔軟性、機能性、または経済性に欠ける場合があります。



### マルチ クラウド環境

プラットフォーム間の相互運用性の有無にかかわらず、パブリックまたはプライベートの複数のクラウドプラットフォームを組み合わせます。マルチクラウドは、ワークロードの配置を最適なプラットフォームに分散するため、シングルクラウド環境と比べて柔軟性とプロバイダーからの独立性が確保されます。



### ハイブリッド クラウド環境

アプリケーションとデータのシームレスな移植性を実現するテクノロジーで緊密に統合された複数のクラウドプラットフォーム（パブリックまたはプライベート）を組み合わせられたものです。通常はベンダーが実装し、分散化、より一貫した運用と効果的なモビリティを実現し、ワークロードとデータ配置の柔軟性を確保します。

## 始めましょう

ビジネスがそれぞれ異なるように、クラウド戦略もビジネスに応じて異なってきます。何が必要かを見極めるには、まず社内の状況を精査することが重要です。

下記は考慮すべき最重要事項のチェックリストです。

### 次の事項をチェックしてみましょう:

- 現在のインフラストラクチャとアプリケーション
- 現在のワークロード(およびそれらが最適に機能する場所)
- 全ビジネスユニットが求める多岐にわたるニーズ
- 移行すべきサービスとアプリケーションの数と種類
- 将来のワークロードとパフォーマンス要件
- ビジネスおよび管理プロセスにおける自動化の可能性
- ニーズの変化のスピード
- 日々のニーズに合わせたクラウドの使用方法
- 業界の規制とコンプライアンス要件
- セキュリティとプライバシーにおけるニーズ
- 開発者のスキルレベルとリソースにおけるニーズ
- ダッシュボードとレポートの複雑さ
- 将来の成長機会

これと同時に、クラウドで何を実現できるのか(そして実現不可能なのは何か)をしっかりと把握し、優先順位をつけることも重要です。**クラウドへの期待と現実にギャップがあることは事実です**。コスト、パフォーマンス、チームに及ぼす影響を考慮する必要があります。チームの期待を正しく理解することが、適切な結果につながります。



## 5

### ベンダーを選択する

世界に存在するベンダー企業の数はいくらもありません。各企業がそれぞれのソリューションを提供し、アピールしています。何が真実でどの点が誇張されているのかをどう見極めれば良いのでしょうか？ どうすれば御社に最適なソリューションが見つかるのでしょうか？

言うまでもないかもしれませんが、すべてのオプションを検討する必要があります。現在取引しているベンダーは、お客様の将来のニーズ、戦略、もしくは予算に適していない可能性もあります。現時点で最もシンプルなソリューションであっても、長期的には効果が期待できないことも想定し、必ず複数のベンダーをチェックするようにしてください。

#### ベンダーのチェック時におけるポイント:

- 関連するハードウェアとソフトウェアの品質
- 現在のインフラストラクチャと統合可能な機能
- 初期実装以上のサービスレベル
- 特定ニーズに対応できるカスタマイズ可能なソリューション
- 追加ニーズやサービスに対してベンダーロックインを要求しない
- 今日と将来のスケールビリティ

ビジネスに最適な選択をすることが、期待値への到達につながります。また、信頼できるベンダーの確保が非常に重要となってきます。

**最終的にビジネスに不必要なソリューションを購入してしまった、提供された価格が結果として高い買い物になったなどの状況に陥らないためにも、細心の注意が必要です。**商品の販売価格に割引が適用されていても、その後のサポートやメンテナンスに高額な契約内容を織り込むベンダーや、独自のハードウェアやソフトウェア パートナー以外のものは使用不可とするベンダーも存在します。ベンダーを選択する際には、とにかく多くの質問を投げかけることです。

ターンキーソリューションまたは DIYの「ビルディングブロック」方式のいずれかにマネージド サービスプロバイダーまたはベンダー製品を使用するという方法があり、一見単純で簡単そうに見えますが、それ自体は唯一のオプションではありません。また、オープンソース コンポーネントを使用して独自のクラウド作成に着手する企業も存在しますが、クラウドの構築や維持は複雑です。その領域に長けた企業や熟練した開発者であっても困難がともないます。



### サブスクリプション型を検討する

従量制課金のオプションでは、ご推測の通り使用量に対しての料金を支払うことになります。そのため、前払い費用の軽減につながります。つまり基本的にサービスとすべてのデータを保有しながらインフラストラクチャのレンタルをすることになります。

このシステムでは投資や容量のコミットメントがなく、柔軟性とスケーラビリティが提供されますが、ベンダーが多額の事前購入契約を要求するケースが多く見られ、また予測バランス内でのお客様の将来の消費が対象となりますので、注意が必要です。サブスクリプション型が自社に最適であると判断された場合は、複数のベンダーからプランを入手し比較検討してください。

**[LenovoのTruScale™インフラストラクチャ・サービスの詳細をご覧ください。](#)**

## 6

## 社内の承認を得る

社内承認は簡単に得られるものではありません。日々の収益に影響を与えかねない場合はなおさらです。ですが、企業に見合った計画であれば、承認は得やすくなりす(始めよければ終わりよし)。ここで、お役立ていただけるアプローチをいくつかご紹介します。

1

### 綿密な計画を立てる

組織の最終的なターゲットをしっかりと把握した上で、会社、経営陣、および将来の目標に適したプランを調整します。(ヘルプが必要ですか?7ページをご参照ください。)

2

### 予算を明確にする

可能な限りあらゆる側面を考慮し、まとめます。また、ROIが必ずしもすぐに反映されるものではなく、それをチームに周知させることも重要です。あくまでも投資であり、直接的に節約を図れるものではありません。総所有コストを優先的に考える必要があります。

3

### アドオンを追加する

予算を立てる際は、ストレージからサポート、拡張の速さまで、利用可能なすべての項目を忘れずに網羅してください。項目が多ければ多いほど、社内からのイエスという言葉は得やすくなるはずです。

4

#### 具体化する

全タイムラインを表示し、期待できる結果も織り込みます。他社の成功例などを紹介することも効果的です。(ヒント:カスタマーサービスをアピールできる最初のチャンスです。ここでベンダーにサポートを依頼すると良いでしょう。)

5

#### 適用する

どのポイントについて話をするのか、また誰を対象に話をするのか、それに応じた調整を心がけます。詳細については右のお役立ちガイドをご覧ください。(必要もないと思われるかもしれませんが、必ず役に立ちます。)

6

#### 代替案を提案する

「もし何もしなければどうなるか」という予見的な考察で、潜在的利益と機会費用との比較検討を行い、クラウドモデルへの移行がビジネスに不可欠である理由を明示します。それは、何も選択しないことが時として最大のリスクを及ぼすことになるからです。

7

#### ビジネスの成功に関連付ける

クラウド運用モデルは、単に効率化を図るだけのものではありません。非常に大きな投資です。よってビジネス目標と収益にも与える影響があることを考慮することが重要です。

## 同僚にいかによりアプローチするか

### CIO/CTO

全体像を分かりやすく伝えながら、効率面に関するストーリーを展開します。企業は機敏性、スピード、よりスムーズな機能や運用を求めてクラウドモデルに移行しています。お客様も例外とは言えません。各企業は、変化の絶えないビジネスや技術的ニーズに対応することで利益を得ます。移行はもはや単なる技術的な決定事項ではなく、経営上の決定事項です。

### CISO

より高いレベルのセキュリティについて言及します。そこには、バックアップおよび災害復旧計画の変更が必要であるという現実を織り込みます。マネージドソリューションを推奨する場合、ベンダーによる確認可能なデータの量や範囲を必ずチェックしてください。

### IT部門責任者

確実に効果的なIT運用につながる製品であり、これを導入すればビジネスの差別化に集中できることを説明します。IT関連者は豊富な知識を有しています。テクノロジーとモビリティ、潜在的なクラウドプロバイダーが提供し得る優れたサービスとパートナーシップについて話をしてください。

### ネットワークエンジニア

日々のタスクに影響を与える可能性が高いため、機敏性とスピードのメリットについて言及し、詳細を必ず説明してください。

### CFO

技術面の説明は割愛し、コストとその予測可能性について言及します。つまり、クラウド戦略は収益をいかに改善するか、ビジネスに適したCapEx(資本支出)とOpEx(事業運営費)の配分をいかに最適化できるか、サイズ変更するにあたりどこに価値を見い出せるか、に焦点を当てます。



## 7 スムーズな進捗を確保する

現在使用している技術を刷新し、最新化を図ることは大きな挑戦です。それをいかに展開するかはさらに大きな課題となります。それは全社員だけでなく、サービス、生産性、顧客にも影響を与える可能性があるからです。可能な限りインパクトを抑えた方法をご紹介します。

### ● 状況に応じた計画を立てる

社内のあらゆるチームと、サービスを信頼し利用し続けている顧客との対話を心がけます。数分のダウンタイムが数千ドルの損失につながりかねない場合、必然的に大きな変更は生産性への影響が最も少ない時間帯に行う必要があります。

### ● 必要な人員を確保する

導入後数週間は、予期しない問題が発生する場合があります。お客様のチームは発生する問題に対応する能力を備えていることを確認してください。また、ベンダーと連携している場合は、ベンダーからも必要なスタッフを派遣して対応できるように、ベンダーに必ず相談してください。

- ◆ **データ保護計画を再考する**

特定のクラウド・ソリューションを組み込むために、データ保護および災害復旧計画の再設計と再実装の必要性が出てきます。決して単純な作業ではないため、ベンダーを有効に活用して行ってください。

- ◆ **チームの調整を図る**

- ◆ チームのスムーズなエクスペリエンスを考え、慌てずに移行を実行します。日々のタスクへの影響度を考慮するだけでなく、唯一のインパクトとはポジティブなものである、という認識を確実にしていきます。例えばトレーニングを実施すべきか、メールを送信すべきか、チームを盛り上げることを目的としたイベントを企画すべきかなど、社内のチームに特に配慮し、最善の移行方法をしっかり計画します。

- ◆ **目的を見失わない**

- ◆ 決して忘れてはならないのは、それがどんな課題であれ努力して乗り越える必要があり、さらに大きな成果につながるということです。期待すべきビジネス成果の創出に向けて一歩ずつ近づいていくということでもあります。ポジティブ精神を忘れずに！



## 総まとめ

当然のことながら、実際のクラウドモデルへの変革は、この8ステップには収まりきらないほど複雑です。しかし、このeBookが何かのお役に立つとすれば、次の点が挙げられるでしょう。

**効果的なクラウド戦略では、既存の IT運用と将来の目標を考慮する必要があります。適切なソリューションと適切なパートナーを選択することで、クラウドがお客様のビジネスを最高の高みへと導きます。**

### クラウド変革に向けたよりスマートなアプローチ

Intel®搭載の Lenovoのクラウド・ソリューションで、私たちはお客様に単なるハードウェア以上のものをご提供します。それは、私たちが「お客様のパートナー」となるということです。また、セキュリティ、スケーラビリティ、俊敏性の面でバランスの取れた導入計画サービスでサポートいたします。さらに、パブリッククラウド、プライベートクラウド、ハイブリッドクラウドに関わらず、お客様が現在使用されているテクノロジーエコシステムでも機能する、企業のニーズに合わせて設計するシステムもご利用いただけます。また、ベンダーがサポートするビルディングブロックを使用したターンキーオプションも同様です。お客様が求めるビジネス成果、ワークロード、移行計画、チームのスキル、予算に合わせたシステムの導入のすべてを実現します。

導入をご検討ですか、またはさらに詳しい情報をご希望ですか？

[いつでもご相談ください](#)

LenovoおよびLenovoロゴは、Lenovoの商標または登録商標です。

Intelおよび Intel Inside は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名、サービス名の名称は他社の商標またはサービスマークである場合があります。